～宮大生のための海外渡航～

オタゴ大学ランゲージセンター留学報告

教育文化学部　人間社会課程　1年　満平　真心人

〇派遣：ニュージーランド・オタゴ大学ランゲージセンター

〇派遣期間：　2011　年　9 月　5日　～　2011 年　9月　30 日

〇渡航時の学年：　1 年次

〇渡日前の手続について
・参加に至った経緯について：
英語科の先生からランゲージセンターについての説明を受けて、以前から留学に興味があったので、留学することを決めました。

・渡航に関する手続について：
パスポートの所得。飛行機のチケット。海外旅行保険。円をニュージーランドドルに換える。

・査証取得：
なし

★体験記：

〇生活費：
渡航費…約20万円
寮費…　授業料などと一緒になっていました。
交通費…毎日バス代で4．6ドル(往復)　日本円…約276円
食費…毎日5～10ドル(学校が昼からの日は家で食べるので、日によって変わる。)
日本円…約300～600円

〇ホームステイ先の環境：
他の人の話を聞く限りでは、かなり良い環境だったと思う。食事もパンばかり食べるのかと思っていたら、米も出てきて驚いた。ホストファミリーは、リスニング力が上がるということで、映画をたくさん見せてくれて、時々分かりにくい場面などは説明してくれたりしてくれて、とてもよい人たちだと感じました。

〇大学のサポート状況：
生徒によって話すスピードを変えたり、語彙のレベルを変えているように感じました。説明もとても分かりやすくて、さすがランゲージスクールだと思った。

〇授業の様子:
所属するクラスのレベルにもよるが、僕が受けていた授業は、内容自体は高校生の時にやったようなもので、先生の話していることを聞き取れるか聞き取れないかが問題でした。僕を含めて、他の生徒たちもあまり英語力が高くない人たちだったので、先生は体を使ったり、身近な例を用いたりして生徒の理解を促していました。また、僕が感じた日本の授業との最大の違いは、発言の多さです。ランゲージセンターでは、授業中に分からないことがあるとどの生徒も先生に質問をします。僕は、初めの頃はその環境にうまく馴染めていなかったけれど、日を重ねるごとにより活発に授業に参加できるようになりました。このことが、僕が留学を通して得た１番大きなものだとおもいます。

〇他の留学生たちの様子:
ほとんどの生徒がアジア人で、そのうち中国人とサウジアラビア人が合わせて全体の８割近くいたと思います。他の学生は、英語をとても積極的に話そうとしていて、僕も刺激を受けてかたことではあるけれど、「英語を伝えようとする姿勢」は身に着けることが出来たと思います。

〇現地学生との交流:
現地学生と交流する機会がありませんでした。

〇街の様子:
街は、基本的に二階建て以上の建物がなく、中世ヨーロッパを連想させるような建物がいたるところにありました。交通手段は、基本的にバスになりますが、料金の払い方が少し特殊なので、もしも留学する場合は、早めにそれを確認しておいたほうがいいと思います。バスの本数も少ないので、時間をしっかり確認しておく必要があると思いました。買い物などは、学校から歩いて５～１０くらいの所に街の中心街があるのでそこですれば大丈夫だと思います。

〇今後、海外渡航を希望する宮大生のみなさんへ
他の国の人たちは、東京や大阪などの有名な地名は知っているけれど、宮崎を知っている人はほとんどいないので、小さな地図を持って行ったり事前に宮崎の写真を撮っておいて、それを持って行くのもいいと思います。留学先に行ってからは、日本人ばかりと話すのではなく極力他の国の人たちと話すようにしたほうがいいと思います。自分以外の留学生もまた、それぞれが独自の文化を持っているので、日本人以外の人と話すことで異文化への理解をより深めることが出来、今まで見えなかった他の国の側面が見えてくるかもしれません。留学の期間が長くても、短くても、得るものはとても多いと思います。特に、自分の考えを持っていても、それを表現することの出来ない人が極めて多い日本人にとっては、留学することはその人の人生観を大きく変えるだけの影響力があると思います。少しでも興味のある人は、留学することをお勧めします。

AIG